

# スジアオノリ養殖の安定生産に向けた品種の開発 農林水産物の強みを生み出す新品種開発事業

牧野賢治・平野 匠

スジアオノリは吉野川等の河口域で養殖され、11～1月の3ヶ月に4～12億円の生産をあげる徳島県が誇る生産性の高い養殖藻類である。しかし、近年、温暖化に伴う高水温化により生産が不安定になりつつある。本研究ではこれらの課題を解決するために、自然界から高水温耐性株を選抜し、これらの株を用いて安定生産を図るための品種を開発する。

## 材料と方法

室内試験において水温35℃の選抜試験で一番良好な生長を示した高水温耐性株（平成28年度事業報告書参照）を使用して養殖期間の高水温期に養殖試験を実施した。平成29年10月3日、1トンパンライト水槽の中に、海水、ノリ網24枚、高水温耐性株を母藻細断法により葉片にしたものを50g（湿重量）入れて採苗作業を開始した。10月15日に採苗を終了して、水槽からノリ網を取り出し、吉野川のスジアオノリ養殖漁場へ張り込んだ。

## 結 果

10月21～22日にかけて台風が来襲した。台風を回避するために、避難場所の港湾内水域で養殖を継続した。10月24



写真1. 収穫された高水温耐性株

日の生育調査で1cmほどに生長した。次の台風が接近中のため、養殖網を移動させずに養殖した。台風通過後、大雨の影響で吉野川が淡水化したことで養殖漁場に養殖網を張り込むことができず、そのまま港湾内水域での養殖を余儀なくされ、11月21日に養殖試験を終了した。藻体は30～50cmに生長しており、試験網24枚分の収穫量は26.2kg（乾燥重量）であった。11月25日の共販で最高値を付けていたことから品質も問題ないと判断した。今後は、吉野川本流での高水温期において養殖試験を実施することが必要であると考え。